

# 小集会プログラム

2日目 3月28日(月) 午後5時15分～7時15分

3日目 3月29日(火) 午後3時45分～5時45分

## 2日目 3月28日(月)

### W01 A会場 (中講義室)

#### バンカー法の研究開発の現状と将来展望

世話人：矢野栄二

W011 ○長坂幸吉 (中央農研)・高橋尚之 (高知研農技セ)・岡林俊宏 (高知県庁)

バンカー法の歴史、問題点と将来展望

W012 ○安部順一郎 (近農研)・岡留和伸 (京都農技セ)・古味一洋 (高知農技セ)

矢野栄二 (近畿大学)

バンカープロで開発されたバンカー法と実用化の展望

W013 ○小原慎司・手塚俊行 (株式会社アグリ総研)

天敵製剤「キイカブリダニ剤」について

W014 ○森光太郎・加嶋崇之・福森庸平・大朝真喜子・平野耕治 (石原産業中央研究所)

シヨクガタマバエの大量増殖技術の開発および製剤化

### W02 B会場 (101)

#### 侵略的外来生物問題その3-有害動植物侵入！ビフォー&アフター-

世話人：浦野 知・守屋成一

コメント 五箇公一

W021 ○吉川元規・米田雅典 (横浜植防)

植物検疫における病虫害危険度解析 (PRA) について

W022 佐藤安志 (野茶研金谷)

ミカントゲコナジラミ (チャ系統) の侵入の経過と対策

W023 浅井元朗 (中央農業総合研究センター)

外来雑草の非意図的導入と耕地への侵入・拡散-現状と課題

W024 ○佐藤雅・時広五朗（横浜植防）

輸入検疫発見トレンドから見る侵入警戒害虫について

### W03 C会場（102）

温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ（1） 桐谷先輩と愉快的仲間

世話人：安田弘法

W031 ○安田弘法（山形大・農）・金子修治（静岡果樹研セ）・鈴木紀之（京大農・昆虫生態）

温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ（1） 桐谷先輩と愉快的仲間

W032 根本 久（埼玉県農林総合研究センター・水田農業研究所）

減農薬農業の探求

W033 宮井俊一（日植防）

「桐谷グループ」から学んだこと ―害虫防除と生態学を中心にして―

W034 湯川淳一（九大）

寄主植物のデータをとる重要性

W035 桐谷圭治（伊東市）

後輩の皆さんへのメッセージ

### W04 D会場（103）

カンキツグリーンング病小集会 2011

～侵入病害虫の防除と根絶、その理論と実践：数理統計手法について学ぶ～

世話人：井上広光・上地奈美・小堀陽一

W041 山村光司（農環研）

病害虫の侵入阻止と根絶確認のための数理統計手法

W042 ○湯田達也（鹿児島農総セ）・○坂巻祥孝（鹿児島大農）・篠原和孝（鹿児島農総セ）・

上福元彰（鹿児島大島支庁）・川島俊次（鹿児島県庁）

喜界島におけるカンキツグリーンング病の緊急防除の概要と根絶確認のための  
必要 PCR サンプル数推定

### W05 E会場（201）

## 闘争と選好性が織りなす世界：新たな研究展開

世話人：立田晴記

W051 立田晴記（琉球大・農）

闘争と選好性が織りなす世界：新たな研究展開－オーバービュー－

W052 原野智広（九大院・理・生態科学）

性選択がもたらすオスとメスの進化的対立：対立の解決は見かけだけ

W053 岡田賢祐（岡大院・環境）

武器形質の進化がオスに及ぼす影響：オオツノコクヌストモドキを例に

W054 ○高見泰興（神戸大・発達）・雀部正毅（京大・理）・曾田貞滋（京大・理）

オオオサムシ亜属の交尾器形態の多様性と遺伝的基盤

W055 ○田辺 力・（熊本大・教育）・曾田貞滋（京大院・理）

ヤスデ類における性的軍拡競走による交尾器進化

W056 大島一正（基生研・生物進化）

ホストレース分化とその維持機構を寄主適応の遺伝基盤から考える

## W06 F会場（202）

### 新害虫の発生生態およびその適応戦略

世話人：野村昌史・八瀬順也

W061 豊嶋悟郎（長野県野菜花き試験場）

急速には拡がらない不思議な侵入害虫～インゲンテントウの侵入とその後～

W062 ○武田 藍・清水喜一・大嵩洋子（千葉農林総研）・熱田圭佑（海匠農林振興

センター）・深見理子（山武農林振興センター）・森本修司（千葉県農林水産部  
生産販売振興課）・椿 正明・福田 寛（千葉県農林水産部担い手支援課）

イヌマキの害虫ケブカトラカミキリの本州初発生と防除対策

## W07 G会場（203）

### 第41回ハダニ談話会

世話人：後藤哲雄・日本典秀

W071 長 泰行（千葉大院・応用昆虫）

周囲環境に応じたナミハダニの捕食者回避行動

W072 伊藤 桂 (高知大・農・昆虫生態)

これからの休眠生態学を考える

## W08 H会場 (204)

### 農薬の生態リスク評価の将来

世話人：本林 隆・日鷹一雅・五箇公一

W081 永井孝志 (農環研)

統計学的手法を用いた育苗箱施用殺虫剤の生態リスク評価

W082 ○渡邊裕純・Dang Quoc Thuyet (農工大)・高木和広・山崎健一 (農環研)

箱施用殺虫剤の水田環境での動態

W083 ○早坂大亮・五箇公一・是永知子 (国立環境研)

水田メソコスムによる生物多様性影響評価

## W09 I会場 (301)

### これからの水稻ウンカ類の防除を考える

世話人：松村正哉・行徳 裕

W091 ○真田幸代・松村正哉 (九州沖縄農業研究センター)

東アジア地域におけるウンカ類の発生状況および薬剤感受性の現状と今後の予測

W092 行徳 裕 (熊本農研セ)

日本におけるウンカ類防除の現状と今後の方向性

W093 平林秀介 (作物研究所)

トビイロウンカ抵抗性品種開発の現状と普及の見通し

## W10 J会場 (302)

### アリをめぐる生物種間の相互作用

世話人：秋野順治・坂本洋典・萩原康夫

W101 乾 陽子 (大阪教育大・教養)

好蟻性昆虫の化学偽装法の多様性

W102 矢後勝也 (東大・総研博)

好蟻性チョウ類の相互関係と形態の多様性

W11 K会場 (305)

チャの害虫ミカントゲコナジラミ (チャ系統) の生態と防除

世話人：吉安 裕

W111 ○笠井 敦<sup>1</sup>・上杉龍士<sup>2</sup>・佐藤安志<sup>2</sup>・山下幸司<sup>3</sup>・上宮健吉<sup>4</sup>・吉安 裕<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>京府大院・応用昆虫, <sup>2</sup>野茶研金谷, <sup>3</sup>京都農技セ・茶研, <sup>4</sup>久留米大)

ミカントゲコナジラミ (チャ系統) とその有望天敵シルベストリコバチの生態

W112 ○竹若与志一 (滋賀農技センター)・宮本大輔・屋嘉比昌彦 (奈良農総センター)

山下幸司 (京都農技セ・茶業研究所)

ミカントゲコナジラミ (チャ系統) の農薬による効率的・効果的防除法の開発

W113 ○山下幸司 (京都農技セ・茶業研究所)・西東 力 (静大・農)・野村茂広・

森井 均 (三重農研・茶業研究室)

天敵を利用したミカントゲコナジラミ (チャ系統) の総合防除

W12 L会場 (401)

昆虫と細菌との多様な共生関係

～伝播様式、機能賦与および生殖操作の機構解明にむけて～

世話人：渡部真也・田上陽介・陰山大輔

W121 菊池義智 (産総研・生物プロセス)

To V, or not to V: 共生細菌をいかに子に伝えるか?

W122 土田 努 (富山大)

共生細菌が賦与する環境適応機能

W123 三浦一芸 (近中四農研・広島大)

Haplodiploidy 2nでもメス, nでもメス: ハチやダニの混沌とする性決定

W124 野田博明 (生物研)

共生細菌のゲノム研究: この10年の歩みと今後の展開

W13 M会場 (106)

殺虫剤作用機構談話会

～アザミウマ類の薬剤抵抗性の現状と分子メカニズムの解析～

世話人：園田昌司・水口智江可

W131 土`田 聡（果樹研・ブドウカキ）

合成ピレスロイド剤抵抗性ネギアザミウマの遺伝子診断法の開発とその利用

W132 ○渡邊丈夫・十川和士（香川農試・生産環境部門）

四国に生息するウイルス病媒介性アザミウマの殺虫剤感受性とその防除対策

W133 ○伊藤政雄・古味一洋（高知農技セ）平田健彦・野町敦志・西岡久人（高知防除所）

高知県におけるミナミキイロアザミウマおよびネギアザミウマの薬剤感受性

## W14 大講義室

### 昆虫病理小集会：昆虫病理学最近の話題

世話人 小池正徳・増田俊雄・国見裕久

W141 ○務川重之・遠山宏和（茨城農総セ・生工研）

昆虫病原糸状菌による害虫防除に湿度管理は必要か？

～害虫の生態と糸状菌感染過程の関係から考える～

W141 ○野田孝博・小野政輝・飯牟禮和彦・荒木朋洋・（熊本県農研セ・東海大・農）

昆虫病原性糸状菌 *Nomuraea rileyi* の発芽促進物質 の単離と構造解析

W141 ○畠山吉則・小田尚幸・岩野秀俊（日大生物資源応用研）

昆虫病原微生物の系統分類、Genome Profilingで見えてきたこと

## 3日目 3月29日(火)

### WS A会場（中講義室）

#### 技術士（農業部門・植物保護）試験対策セミナー

世話人：日本応用動物昆虫学会 技術士対応委員会

(1) 技術士制度について

国見裕久教授（東京農工大学）

(2) 第1次および2次試験対策

濱本 宏教授（法政大学生命科学部植物医科学専修）

(3) 合格体験

黒木修一氏（宮崎県農政水産部営農支援課）

新山徳光氏（秋田県病虫害防除所）

(4) 質疑応答

## W15 B会場 (101)

### 第3回昆虫ホルモン談話会

～幼若ホルモンの化学と阻害剤研究の過去・現在・未来～

世話人：篠田徹郎・丹羽隆介

W151 ○小滝豊美（農生研）・品田哲郎（大阪市大・院理）

新規幼若ホルモン、JHSB<sub>3</sub>の構造決定とカメムシ類における JH 研究の今後

W152 桑野榮一（九州大学名誉教授）

抗幼若ホルモン活性物質の合成探索

## W16 C会場 (102)

### 第17回日本 ICIPE 協会研究報告会：アフリカ応用昆虫学の現在と今後

世話人：佐藤宏明

W161 湯川淳一（九大／イシペ理事）

国際昆虫生理生態学研究センターにおける研究・教育・普及活動の紹介

W162 皆川 昇（長崎大学・熱帯医学研究所）

西ケニア・ビタ地区におけるマラリア媒介蚊とその制御

W163 ○中村 傑<sup>1</sup>・村中 聡<sup>2</sup>・Manuele Tamò<sup>2</sup>・小路晋作<sup>3</sup>・足達太郎<sup>1</sup>（<sup>1</sup>東京農大,  
<sup>2</sup>IITA,

<sup>3</sup>金沢大学）

ナイジェリア北部におけるササゲ害虫の総合的害虫管理

## W17 D会場 (103)

### 線虫学小集会：「線虫を知り、いかに利用するか」

～線虫学のパイオニアから学ぶサイエンスのこれから～

世話人：奈良部孝・長谷川浩一

W171 石橋信義（元 佐賀大学・農）

我が国における有用線虫学の経緯

W172 三輪錠司（中部大・応用生物）

線虫学が *C. elegans* を取り込む日を目指して

W173 吉賀豊司 (佐賀大・農)

線虫-微生物の相互作用と有用資源としての可能性

W174 長谷川浩一 (中部大・応用生物)

線虫 *C. elegans* は基礎研究にも応用研究にも有用である

## W18 E会場 (201)

侵略的外来生物問題その4：外来昆虫管理の今後のあり方

世話人：五箇公一・光畑雅宏

W181 石井 実 (大阪府大・生命環境)

外来生物法の見直し

W182 井上真紀 (国立環境研究所)

特定外来生物セイヨウオオマルハナバチの防除戦略

W183 ○荒谷邦雄・細谷忠嗣 (九大・院・比文)

要注意外来生物クワガタムシ類の最新情報

W184 岡本 卓 (国立環境研究所)

外来生物情報の管理と共有の方策を考える

## W19 F会場 (202)

国際社会性昆虫学会日本地区会 (JIUSSI) 懇談会

社会性アブラムシ研究における最近の展開

世話人：辻 和希

W191 ○服部 充 (信大・総工)・岸田 治 (北大・FSセンター)・市野隆雄 (信大理・生)

真社会性アブラムシがもつ巧妙な対捕食者戦略

W192 植松圭吾 (東大・総合文化)

社会性アブラムシにおける防衛個体の多様性と進化

## W20 G会場 (203)

現場で役立つ生物多様性情報とは？

世話人：前藤 薫



W201 三浦一芸（近中四農研・広島大生物圏）

昆虫の同定に DNA って役に立つの？

W202 神保宇嗣（東大・院・総合文化・広域システム）

同定に有用な生物多様性情報を集める

W203 ○大澤剛士・吉武 啓（農環研）

基盤情報整備と実現サービスを連動させる取り組み

## W21 H会場（204）

### 基礎研究から応用課題解決へ

－難防除土壌生息性害虫ハウレンソウケナガコナダニへのアプローチ－

世話人：天野 洋

W211 天野 洋（京大院・農・生態情報）

農水省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」の立ち上げ

W212 高久 元（北海道教育大学）

トゲダニ類の基礎的研究の紹介

W213 春日志高（三島高校）

ハウレンソウケナガコナダニの生態研究－管理体系の確立を目指して－

## W22 I会場（301）

果樹の難防除害虫研究会－果樹カメムシ 最近の話題－

世話人：外山晶敏・高梨祐明・望月文昭

W221 堤 隆文（福岡農総試）

果樹カメムシ類の防除と予察、「技術の壁」にどう立ち向かえばよいのか？

W222 三代浩二（農研機構・果樹研）

果樹カメムシの飛翔行動に及ぼす光反射シートの効果および共生細菌の系統解析

W223 藤井達也（信越化学工業）

果樹カメムシ類のフェロモンに関する報告

W224 舟山 健（秋田農技セ果樹試）

北日本におけるクサギカメムシ発生数の年次変動に関与する要因

## W23 J会場 (302)

### 昆虫における複合適応形質進化の遺伝子基盤

世話人：嶋田 透・深津武馬

W231 矢後勝也 (東大・総研博)

シジミチョウ科に見られる複合適応形質の進化—幼虫の好蟻性および肉食性の進化から—

W232 ○大島一正・長谷部光泰 (基生研・生物進化)

寄主転換の遺伝基盤に迫る：クルミホソガ (鱗翅目：ホソガ科) を用いた QTL 解析によるアプローチ

W233 ○藤井 告<sup>1</sup>・藤井 毅<sup>1</sup>・並木重宏<sup>2</sup>・阿部広明<sup>3</sup>・勝間 進<sup>1</sup>・神崎亮平<sup>2</sup>

嶋田 透<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東大・院農, <sup>2</sup>東大・先端研, <sup>3</sup>農工大・農)

カイコの *acj6* 変異体に認められる性フェロモン応答性と食性の異常

W234 ○山口淳一 (東大院・新領域)・山本公子 (生物研)・伴野 豊 (九州大)

藤原晴彦 (東大院・新領域)

*wnt1/wingless* が鱗翅目の幼虫体表でスポット紋様形成を制御する分子メカニズム

W235 杓掛磨也子 (産総研・生物プロセス)

社会性アブラムシにおける自己犠牲的なゴール修復行動の分子基盤

## W24 K会場 (305)

### 深化するガ類性フェロモンの真価

～カイコガから野外種、そして再びカイコへ～

世話人：藤井 毅・櫻井健志

W241 ○藤井 毅・石川 幸男 (東大院・農)

発信者の持つ風変わりな 11 位不飽和化酵素

W242 ○大門高明・藤井 毅・嶋田 透 (東大院・農)

カイコとその近縁種における性フェロモンシステムの進化

W243 ○光野秀文・神崎亮平 (東大・先端研)

受信者の持つフェロモン受容の実体：性フェロモン受容体

W244 ○櫻井健志<sup>1</sup>・光野秀文<sup>1</sup>・Haupt Stephan Shuichi<sup>1</sup>・内野恵郎<sup>2</sup>・横張文男<sup>3</sup>・小林

功<sup>2</sup>・西岡孝明<sup>4</sup>・瀬筒秀樹<sup>2</sup>・田村俊樹<sup>2</sup>・神崎亮平<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東大先端研, <sup>2</sup>生物研,  
<sup>3</sup>福岡大理学部, <sup>4</sup>慶應大先端生命研)  
フェロモン源定位行動発現の匂い特異性を決定する分子・神経基盤

W245 ○並木重宏・神崎亮平 (東大・先端研)  
性フェロモン情報を処理する脳内の基本回路

## W25 L会場 (401)

### 生物間相互作用の情報科学 その8 ～昆虫の行動と生体アミン

世話人：大村 尚・小野正人

W251 ○中山 慧 (岡大院・環境)・西 優輔 (岡山県農業総合センター)・宮竹貴久  
(岡大院・環境)・佐々木謙 (金沢工大・応用バイオ)  
生体アミンが生み出す行動形質間の遺伝相関：擬死行動と歩行活動量へのドーパ  
ミンの多面発現効果

W252 佐々木謙 (金沢工大・応用バイオ)  
行動多型の転換や維持に関わる生体アミン